

様式1(主な取組)

活動指標名	文化資源を活用したビジネスの支援				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	1件	19件	21件	19件	100.0%	106,500	順調	<p>県内文化関係団体を対象に、文化芸術活動の持続化に向けた課題解決の取組、魅力的な創造発信を行う取組、文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を図る取組を公募し、21件を採択した。採択された取組について、補助を行うとともに文化の専門人材によるハンズオン支援を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>実績値及び計画値の達成割合による。各補助団体の実施した取り組みにより、本県の文化芸術を支える環境の形成の推進と文化藝出活動の持続的発展が図られた。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業による支援事例をweb上で紹介するほか、支援事例集の配布を通じて、事業趣旨の周知徹底を図る。 ・地域の多様な主体（企業、教育機関、医療・福祉機関、NPO等）向けに、文化芸術資源を活用する取組への意欲喚起に向けたセミナー等を開催する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・支援事例集を文化振興会のホームページで公開する。 ・離島を含め事業の説明会奈良を行い、事業の周知、応募の掘り起こしを図った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

事業の周知を県内の離島を含め、広い範囲に引き続き図る必要がある。

○外部環境の変化

・文化芸術振興基本法の改正により平成29年6月施行となった文化芸術基本法では、文化芸術に関する施策の推進に当たっては、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならないこととされている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・事業趣旨の周知徹底や、新たな応募事業者の掘り起しにつながる取組が求められる。
- ・地域の多様な主体に対して、文化芸術資源を活用する取組についての認知度や関心の向上を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・令和元年度に引き続き本事業による支援事例をweb上で紹介するほか、支援事例集の配布を通じて事業趣旨の周知徹底をはかる。
- ・離島を含み県内各地に、地域の多様な主体（企業、教育機関、医療・福祉機関、NPO等）向けに、文化芸術資源を活用する取組への意欲喚起に向けたセミナー等を開催する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(6)-ア	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	施策	② スポーツ関連産業の振興
			施策の小項目名	○スポーツ関連ビジネスの創出支援
主な取組	スポーツ関連産業振興戦略推進事業			
対応する 主な課題	②スポーツ関連産業については、観光、健康、ゲーム、ファッション等といった周辺産業と融合が進みポテンシャルの高い産業として全国的にも期待が高まっている分野である。 ③沖縄県は温暖な気候のもと年中スポーツができる環境に恵まれ、プロ野球のキャンプやスポーツイベントが盛んであるものの、スポーツそのものを生かしたビジネスは少ない状況にある。今後は、スポーツを有望な産業資源として捉え、既存産業との連携・融合により関連ビジネスを多数創出していく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
スポーツ関連産業の振興を目的とした戦略の構築を図るため、スポーツ関連産業等の実態把握調査・分析及び方向性の検討等を踏まえスポーツ関連ビジネスモデル事業及びスポーツ関連ビジネス企画コンテストを実施し、スポーツの産業化を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		実施主体		県		
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部スポーツ振興課	【098-866-2708】		フォローアップ調査		
		スポーツ産業定着化の支援、関連人材育成				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	スポーツ関連産業振興戦略推進事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
	主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	
一括交付金(ソフト)	補助	62,231	66,468	49,810	—	—	—	—	OR元年度： — OR2年度： —

様式1(主な取組)

活動指標名	支援件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	4件	8件	7件	0件	0件	4件	0.0%	0	やや遅れ	スポーツ関連産業の振興を目的としたスポーツ関連産業ビジネスモデル事業において支援したモデル事業の事業継続について把握するため、フォローアップ調査を行う。
活動指標名	スポーツ産業定着化の支援				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	国等と連携した支援		100.0%			
活動指標名	フォローアップ				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	協議会への参画		100.0%	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	スポーツ関連産業ビジネスモデル事業における支援は平成29年度をもって完了した。現在は国が構築した沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会に参画するとともに、国、プロスポーツチーム等の会員事業者と連携しスポーツ関連産業創出に向けた側面支援を行っている。	
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 沖縄におけるスポーツ関連産業振興の新たな戦略づくりや事業者が一体となった取組ができるような仕組み作りを検討していく。 						<ul style="list-style-type: none"> 国が構築した沖縄スポーツ・ヘルスケア産業クラスター推進協議会に参画するとともに、国、プロスポーツチーム等の会員事業者と連携しスポーツ関連産業創出に向けた側面支援を行っている。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・サッカーキャンプ誘致等、スポーツコンベンション等が順調に推移し、スポーツを通じた観光誘客の平準化が図られるようになった。
- ・県外事務所との連携により、県外プロスポーツチームと地元企業の土産物開発が進みつつある。
- ・県内スポーツ施設等のITサービス開発等、他産業との連携が期待できる。
- ・スポーツビジネスの振興における課題や沖縄の優位性等、産業化の可能性について再整理をする必要がある。

○外部環境の変化

- ・TOKYO2020等大規模な国際スポーツ大会開催に向け、スポーツへの意識が高まる中、全国的にスポーツ関連産業への関心も大きくなっている。
- ・スポーツツーリズム、スポーツコンベンションが順調に推移する中、スポーツをフックとしたサービス開発に取り組む地元企業が出始めている。
- ・産業クラスターを契機としてスポーツビジネスに参入する事業者やアリーナ等を核とした街づくりに取り組む市町村が出始めている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・これまでに支援したモデル事業について、支援終了後事業展開や課題等について継続的なフォローアップを行うとともに、「内部要因」「外部環境の変化」を踏まえ、国、市町村、大学、関連事業者等と連携し、新たなスポーツ関連産業の創出を推進する。

4 取組の改善案 (Action)

- ・引き続き、過去に支援したモデル事業について動向を確認していくとともに、国、市町村、大学、関連事業者等と連携し、新たなスポーツ関連産業の創出を推進する。

様式1(主な取組)

活動指標名	スポーツツーリズムモデル事業数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	8件	6件	6件	4件	5件	3件	100.0%	82,340	順調	スポーツを通じた観光誘客を推進するため、県内におけるスポーツイベントの創出を図り、定着化、自走化に向け5件の補助対象事業者に対し、補助を行った。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新規のスポーツイベントには補助率を高く設定し、2年目以降のスポーツイベントは補助率を下げるなど、スポーツイベントの定着化が図られるよう、支援枠を設定しており、モデル事業数が計画値を上回る5事業となったため順調とした。
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 採択事業者に対し、参加者の募集や協賛金の獲得等、アドバイザーによる定着化・自走化を目指した定期的な支援を行う。 スポーツイベント情報を多く扱うwebサイト等を活用して、イベント情報の発信を支援する。 						<ul style="list-style-type: none"> アドバイザーによる面談及びメール等での支援を定期的に行った。 スポーツイベント情報が集まるwebサイトやプレスリリース会社を活用し、イベント情報の発信を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・平成24年度から平成30年度に支援したイベントのうち、翌年自走化したイベントは55.6%である。
- ・創出したスポーツイベントの定着・自走化を図るためには、安定的な収入や執行体制が必要である。

○外部環境の変化

- ・国際情勢や感染症等に起因する旅行控えやスポーツイベントの延期・中止等により、入域観光客数に影響が出ている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・引き続き、イベントに精通したアドバイザーによる事業者支援を行う必要がある。
- ・国際情勢や感染症等に起因する入域観光客数やイベント等の参加者数の減に関し、対応する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・採択事業者に対し、安定的な収入の獲得方法等、アドバイザーによる定着化・自走化を目指した定期的な支援を行う。
- ・スポーツイベント情報を多く扱うwebサイト等を活用して、イベント情報の発信を支援する。

様式1(主な取組)

活動指標名	スポーツ観光のプロモーション				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	プロモーションの実施	プロモーションの実施	—	100.0%	69,647	順調	<p>活動概要</p> <p>沖縄の年間を通じて温暖な気候とスポーツ資源を活用したスポーツツーリズムの普及・定着及び観光誘客を促進するため、マラソン大会やサイクリングイベントにおけるブース出展や、県外・海外の見本市への出展等により、沖縄県へのスポーツ旅行に係る誘客プロモーションを実施した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>マラソン・サイクリング・ゴルフの重点種目に特化した沖縄のスポーツ環境のPRや沖縄関係イベントにおけるビーチヨガ、SUP等のスポーツアクティビティのPR、Jリーグ、Bリーグの公式戦におけるFC琉球及び琉球ゴールデンキングスホーム戦への誘客PR等、25件のプロモーションを実施し、スポーツ観光の促進を図った。</p>
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<p>・FC琉球や琉球アスティーダなど、盛り上がりを見せている県内プロスポーツチームを活用した観光誘客及び県民のスポーツに関する気運醸成のためのプロモーションを機を逸することなく効果的に実施する。</p>						<p>・FC琉球が所属するJリーグと琉球ゴールデンキングスが所属するBリーグの公式戦において、観光誘客及び県民のスポーツに関する気運醸成のためのプロモーションを実施した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄へのスポーツ旅の誘客を増加・定着させるためには、沖縄の優位性・独自性を活かしたスポーツ旅のPRや県内のスポーツに関する気運醸成が重要である。

○外部環境の変化

・国際情勢や感染症等に起因する旅行控えやスポーツイベントの延期・中止等により、入域観光客数に影響が出ている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・スポーツへの参加及びスポーツの観戦を目的とした沖縄へのスポーツ旅の誘客を図るためには、沖縄県がスポーツで盛り上がっていることを実感することができる雰囲気作りが必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・FC琉球や琉球アスティーダなど、盛り上がりを見せている県内プロスポーツチームを活用した観光誘客及び県民のスポーツに関する気運醸成のためのプロモーションを機を逸することなく効果的に実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(6)-ア	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	施策	② スポーツ関連産業の振興
			施策の小項目名	〇スポーツツーリズムの推進
主な取組	プロ野球キャンプ等訪問観光促進事業			
対応する主な課題	③沖縄県は温暖な気候のもと年中スポーツができる環境に恵まれ、プロ野球のキャンプやスポーツイベントが盛んであるものの、スポーツそのものを生かしたビジネスは少ない状況にある。今後は、スポーツを有望な産業資源として捉え、既存産業との連携・融合により関連ビジネスを多数創出していく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
プロ野球キャンプ観戦を目的とした観光誘客を推進し、来訪者の増加を図るため、プロ野球キャンプ集積地ならではの全県的な取組を行う。						
		プロ野球キャンプ等訪問観光促進への取組				
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部スポーツ振興課 【098-866-2708】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	プロ野球キャンプ等訪問観光促進事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： プロ野球キャンプを目的とした来訪者の増加を図るためのプロモーション、情報発信、機運醸成、受入市町村と連携した取組等の実施。 OR2年度： プロ野球キャンプを目的とした来訪者の増加を図るためのプロモーション、情報発信、機運醸成、受入市町村と連携した取組等の実施。
							一括交付金(ソフト)	委託	
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	プロ野球キャンプ等訪問観光促進の取組				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	実施	実施	実施	実施	実施	—	100%	43,302	順調	ファン感謝イベントを活用した情報発信、プロ野球沖縄キャンプ開幕イベントの実施、那覇空港でのプロ野球沖縄キャンプPRブース設置、ガイドブックの配布等により、プロ野球キャンプ集積地ならではの取組を実施した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										ファン感謝イベントの活用や雑誌掲載による県内外での誘客プロモーション、WEBサイトや各種SNSでの情報発信、那覇空港でのプロ野球沖縄キャンプPRブース設置、ガイドブックの配布、市町村と連携したプロ野球沖縄キャンプ開幕イベント開催等の取組を実施した結果、平成30年度のプロ野球キャンプ等を目的とした県外からの観客数は9万2千人となり、平成24年度以降毎年増加している。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者によるアンケート調査で好評であった那覇空港でのキャンプPRブースについて、グッズの追加設置等により来訪者の満足度を向上させ、SNSによる拡散を図るなど、キャンプ地としての盛り上がりの創出や来訪の動機作りに繋がる取組を行う。 ・ 各球団とファンの玄関口となる那覇空港を中心に、プロ野球沖縄キャンプのロゴ等で装飾し、沖縄県全体の歓待ムードを醸成するとともに、本事業に係る各種取組の周知を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇空港でのプロ野球沖縄キャンプPRブースにおいて、球団ユニフォーム展示、写真撮影バックパネル、VR体験アトラクション設置等により、来訪者の満足度向上及びSNSでの拡散を図り、キャンプ地としての盛り上がりの創出や来訪の動機作りに繋がる取組を実施した。 ・ 那覇空港や国際通り、ショッピングモール等でのプロ野球沖縄キャンプロゴマーク装飾を行い、プロ野球キャンプ受入の機運醸成を図った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄県内におけるプロ野球キャンプの観客数は右肩上がり増加し、順調に推移している一方で、各キャンプ地において駐車場の不足、周辺道路の渋滞などの問題が生じている。

○外部環境の変化

・県外からの来訪者から各キャンプ地への分かりやすいアクセス情報を求められている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・沖縄県がプロ野球キャンプ開催地としてのブランド化を確立し、プロ野球キャンプを目的とした来訪者数の更なる増加を図るためには、キャンプ地へのアクセス等の来訪者の利便性を高める取組を検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・プロ野球沖縄キャンプ攻略ガイドブックや専用WEBサイト等において、バス・モノレール等でのアクセス方法や路線バス周遊パス等の公共交通機関情報を掲載・発信し、プロ野球キャンプを目的とした来訪者の利便性を高める取組を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(6)-ア	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	施策	② スポーツ関連産業の振興
			施策の小項目名	〇スポーツツーリズムの推進
主な取組	サッカーキャンプ誘致戦略推進事業			
対応する主な課題	③沖縄県は温暖な気候のもと年中スポーツができる環境に恵まれ、プロ野球のキャンプやスポーツイベントが盛んであるものの、スポーツそのものを生かしたビジネスは少ない状況にある。今後は、スポーツを有望な産業資源として捉え、既存産業との連携・融合により関連ビジネスを多数創出していく必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
サッカーキャンプの誘致を推進し、市町村及びキャンプ実施チーム等との連携強化、キャンプを目的とした観光客の増加及び経済効果の向上・地域活性化を図ることで、サッカーキャンプ地としてのブランド化を図る。		23件 キャンプ 誘致件数	24件	25件	26件	27件
		サッカーキャンプ誘致の取組				
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部スポーツ振興課		【098-866-2708】			
		受入市町村の創出、県内スポーツターフ管理者の技術向上等				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 サッカーキャンプ誘致戦略推進事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： サッカーキャンプ誘致・誘客に資する取組、トレーニングマッチのコーディネート、経済効果の検証等	
一括交付金(ソフト)	委託	61,454	59,553	41,665	35,294	39,897	27,835	一括交付金(ソフト)	OR2年度： サッカーキャンプ誘致・誘客に資する取組、トレーニングマッチのコーディネート、経済効果の検証等	
予算事業名 サッカーキャンプ誘致戦略推進事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：	
									OR2年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	サッカーキャンプ誘致件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	21件	22件	24件	28件	29件	25件	100.0%	39,897	順調	<p>活動概要</p> <p>県外クラブ訪問等の誘致活動を行ったことやキャンプ受入市町村の芝環境を整備したこと等により、キャンプ実施クラブの拡大を図った。また、サッカーキャンプガイドブックの配布、専用WEBサイトでの練習日程やトレーニングマッチ等の情報を発信することで、沖縄サッカーキャンプのPRや効果検証を図った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>県外クラブへの訪問や来沖クラブの視察に帯同するなど、誘致活動を積極的に行ったほか、市町村、宿泊施設、キャンプ関係者等と連携し、芝・宿泊・医療環境等を整え、受入体制を強化したこと等により過去最高29のクラブを誘致することができた。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値										
活動指標名					R元年度					
実績値										
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<p>・サッカーキャンプ受入市町村等と連携し、ガイドブックをはじめとする各種情報発信媒体等において、受入市町村の観光資源に係る情報等を効果的に発信することにより、サッカーファンの誘客を促進し、地域振興に寄与する取組を実施する。</p> <p>・受入施設を拡大するため、県内各市町村と連携することにより、質の高い芝環境の整備を実施する。</p>						<p>・サッカーキャンプ受入市町村等と連携し、ガイドブック、キャンプ地情報発信拠点施設、キャンプ専用WEBサイトにおいて、受入市町村の観光資源に係る情報等を効果的に発信し、サッカーキャンプを目的とした訪問者数の増加、経済効果の向上及び地域活性化に寄与する取組を行った。</p> <p>・今年度は豊見城市の豊見城運動公園陸上競技場を新たなキャンプ受入施設として整備したとともに、県内キャンプ受入施設の土壌・クオリティ調査を実施し、芝質の維持・向上を図った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 離島においては、実践相手 (トレーニングマッチ) の確保が課題となっている。

○外部環境の変化

・ Jクラブや海外クラブから沖縄キャンプの実施希望が多くあるが、受入可能なグラウンドが不足している状況である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 地域振興を図るため、サッカーキャンプ受入市町村及びクラブと連携し、集積地ならではの全県的な取組を推進する必要がある。
・ キャンプ実施クラブ数を増やすため、受入施設の拡大を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ サッカーキャンプ受入市町村等と連携し、ガイドブックをはじめとする各種情報発信媒体等において、受入市町村の観光資源に係る情報等を効果的に発信することにより、サッカーファンの誘客を促進し、地域振興に寄与する取組を実施する。
・ 受入施設を拡大するため、県内各市町村と連携することにより、質の高い芝環境の整備を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	歓迎支援件数（沖縄県でキャンプを実施するプロスポーツチーム等に対する地域特産品の贈呈等）				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	35件	47件	41件	44件	36件	46件	78.3%	3,768	概ね順調	<p>沖縄県でキャンプを実施するプロスポーツチームに対して地域特産品や花束の贈呈等を行ったほか、ウェルカムボードや横断幕を制作するなど、県民を挙げてのスポーツコンベンション受入歓迎の気運醸成を図った。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>歓迎支援件数は、プロサッカーで19件、プロ野球で17件の計36件となり、計画値の46件に及ばない結果となった。</p> <p>要因としては、日韓情勢の悪化による韓国球団のキャンプ実施件数の減や新型肺炎の影響による中国サッカーチームのキャンプ中止・歓迎式の自粛といった外的要因が挙げられる。</p> <p>次年度も、引き続きプロチームを歓迎するための各種取組を実施し、スポーツコンベンションの気運醸成を図る。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	<p>(2) これまでの改善案の反映状況</p>		
令和元年度の取組改善案								反映状況		
<p>・スポーツコンベンション誘致受入の県域的な拡大に向けて、スポーツコミッション沖縄を中心として受入市町村や関係競技団体等と連携し、地域の受入ノウハウのレベルの平準化を図る。</p>								<p>・各地で実施されたキャンプチーム歓迎セレモニーに係る取組の成果や課題点を集約し、受入市町村、関係団体等が参加する連絡協議会において情報共有を図った。</p>		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・各市町村が主体となって実施している歓迎セレモニーについて、同じカテゴリーのスポーツチームに対しても、自治体間によって歓迎ムードの創出に違いが生じている。

○外部環境の変化

・スポーツコンベンションの誘致について、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて他の都道府県との間で競争が激しくなっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・受入市町村のスポーツコンベンションに対する歓迎支援の成果や課題を共有化し、支援内容等について検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・スポーツコンベンション誘致受入の県域的な拡大に向けて、スポーツコミッション沖縄を中心として受入市町村や関係競技団体等と連携し、歓迎式における支援内容等において助言・アドバイスを行うことにより、地域の受入ノウハウのレベルの平準化を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(6)-ア	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出	施策	③ 健康サービス産業の振興
			施策の小項目名	—
主な取組	ウェルネスツーリズム等の推進			
対応する主な課題	④健康サービス産業の振興においては、沖縄の健康資源を活用した健康増進プログラム等の商品化に際し、健康増進に資する科学的根拠や検証結果の利活用を進める必要があるほか、その消費対象である観光客等に向けた国内外でのプロモーション活動の取組も不可欠となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
沖縄の自然環境資源や健康保養施設等を活用したウェルネスリゾート地としての体制を構築するため、ウェルネス・医療ツーリズム等に関連した事業に先進的に取り組む事業者等の支援を行うとともに、ウェブサイトでの情報発信を行う。		ウェルネスツーリズムに取り組む県内事業者に対するコンテンツ開発及びプロモーション					
実施主体	県						
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部観光振興課						
						→	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	ウェルネスリゾート構築推進事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：平成29年度で事業が終了しているが、当事業にて開発したウェルネスプログラムをWeb上で継続的に活用し情報発信を行っている。 OR2年度：令和元年度と同様に活用を促す。
一括交付金(ソフト)	補助	33,620	17,285	5,970	—	—	—		

予算事業名	沖縄観光国際化ビックバン事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：平成30年度事業で終了。 OR2年度：
一括交付金(ソフト)	委託	—	—	—	954,061	—	—		

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">平成31年以降も引き続き、ウェルネスコンテンツ開発を行う事業者への支援を実施するとともに、情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none">令和元年度は、観光誘致対策事業にて、沖縄トップセールス及びセミナー商談会をタイで実施し、事業者支援を行った他、平成29年度ウェルネスリゾート構築推進事業にて商品化したプログラムを、令和元年度もWeb上で活用し情報発信を行っている。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">沖縄らしいウェルネス関連商品及びPRが不足している。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">医療ツーリズムについては、日本医師会が、国民皆保険の崩壊に繋がるとして反対の姿勢を明確に示しており、県内においても医療ツーリズムに積極的に取り組む医療機関は数カ所にとどまっている。超高齢社会を迎え、時間とお金に余力のあるアクティブシニアを代表とした健康志向の高まりを受け、旅行しながら健康になれるという旅行形態へのニーズがある。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">日本の医療制度や医師会等の動向を慎重に見極めながら、沖縄の強みである豊かな自然、温暖な気候、癒やし等を活用したウェルネスツーリズムを推進するため、沖縄らしいウェルネス関連商品を増やすと共にPRしていく必要がある。	



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">令和2年度以降も引き続き、ウェルネス関連事業者等への支援を実施するとともに、情報発信を行う。
--